

えびの市こども計画（案）に係るパブリックコメントへの対応等について

※パブリックコメント期間 R6. 12. 26～R7. 1. 27 ※いただいた意見：1 名から 8 件

番号	計画(案) ページ	いただいたご意見	市の考え	計画への対応	備考
①	—	カタカナ言葉が多く使われているように感じます。 できるだけ漢字・ひらがななど、日本の言葉で表現してほしいと思います。	ご意見のとおり、分かりにくい外来語や専門的用語等の記載がありました。 誰が見ても分かりやすい計画となるようにしたいと考えます。	計画全文を読み直し、漢字・ひらがな表記に変えられるものは変更します。 また、計画の最後に、用語の説明の一覧を加えます。	
②	4	「〈こども施策の共通の基盤となる取組〉①「こどもまんなか」の実現に向けた EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング）証拠に基づく政策立案」と書かれています。 EBPM という用語は一般的ではないため、計画に記載するのは不適切だと思います。また、エビデンスの意味合いとして「証拠」という用語が使われていますが、「根拠」の方が妥当ではないでしょうか。ここでは単に、「こどもまんなか」の実現に向けた、根拠に基づく政策立案」で良いと思います。	2 ページから 4 ページは国の「こども大綱」の概要についての説明をしており、用語等については国の標記のまま掲載したいと考えます。 また、ご意見のとおり、分かりやすい言葉で説明することは重要と考えます。	計画の最後に、用語の説明の一覧を加えます。 こちらの用語「EBPM」もその一覧の中に加えます。 4 ページ本文中の「証拠」は「根拠」に変更します。	
③	18～22	18 ページの中段に、突然、〈今後最も重要な項目（Ⅳ）〉というタイトルが出てきますが、「(Ⅳ)」の意味合いが分かりません。21、22 ページの図表を見ると何となく理解できますが、18 ページの時点では理解不能なので、21、22 ページの図表と関連付けた説明文の追記が必要だと思います。	ご意見のとおり、前から読み進めて、分かりにくい記載となっていました。	18 ページ上部の説明文章に、21、22 ページのグラフと関連付けた説明を追加します。	

番号	計画(案) ページ	いただいたご意見	市の考え	計画への対応	備考
④	45～74	タイトルが「5 第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画の評価」とされていますが、どうしてここで第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画の評価が出てくるのか唐突な感じがします。 唐突感の理由は、説明がなく表の提示だけだからだと思います。 「第2章 こども・若者を取り巻く現状」の項目5という位置づけなので、タイトルの下に、例えば、「えびの市子ども・子育て支援事業計画に基づく令和6年度までの事業の実績分析及び評価から、今後の課題を抽出した内容を以下に提示します。」というような説明文が必要ではないでしょうか。また、第2期の対象年度を明記することが望まれます。 主要施策ごとに【具体的目標値】の表が掲げられていますが、ここでは実績及び評価を見てもらいたいのでしょうかから、タイトルは例えば【目標達成状況】などとした方が良いと思います。	ご意見のとおり、説明文、計画の対象年度の記載があった方が分かりやすいと考えます。 また、目標値についても、実績や達成状況に注目してもらえるようにタイトルを表示したいと考えます。	45 ページ「5 第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画の評価」の下に「第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画（対象年度令和2年度から令和6年度まで）に基づく事業の取組状況と課題及び具体的目標値の達成状況を以下にお示します。」の説明文を加えます。 46 ページから 74 ページまでの間にある、「【具体的目標値】」を「【具体的目標の達成状況】」に変更します。	
⑤	75～79	上記の「5 第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画の評価」と同様に、「第2章 こども・若者を取り巻く現状」の項目6という位置づけがわかるよう説明文が必要だと思います。 「5 第2期えびの市子ども・子育て支援事業計画の評価」には書かれている【具体的目標値】の表が省略されており、全体としてのトーンがあっていません。合わせるべきだと思います。	ご意見のとおり、説明文、計画の対象年度の記載があった方が分かりやすいと考えます。 第2期えびの市子どもの貧困対策推進計画については、事業の取組において具体的数値目標を掲げていないため、目標値の達成状況については記載できません。	75 ページ「6 第2期えびの市子どもの貧困対策推進計画の評価」の下に「第2期えびの市子どもの貧困対策推進計画（対象年度令和3年度から令和6年度まで）に基づく事業の取組状況と課題を以下にお示します。」の説明文を加えます。	

番号	計画(案) ページ	いただいたご意見	市の考え	計画への対応	備考
⑥	89	プレコンセプションケアという、大半の市民が知らないと思われる外来語を使う必要があるのか疑問。「妊娠前の健康管理」という言葉に置き換えることが望まれます。 仮に、国に、プレコンセプションケアという言葉が国民の常識として定着させたいという考えがあるのだとしたら、その旨を注記することが必要かもしれません。	こちらの用語は国の「こども大綱」の施策に関する重要事項として掲げられており、それに対応して表示したものですので用語はそのまま掲載したいと考えます。	計画の最後に、用語の説明の一覧を加えます。 こちらの用語「プレコンセプションケア」もその一覧の中に加えます。	
⑦	91	コーディネーターの配置が掲げられていますが、これは生活保護を担当する福祉課職員の本来業務だと思われます。「相談支援に豊富な経験を持つコーディネーター」という美名の下に安易に人を雇うことは人件費の増加につながりかねません。生活保護世帯の18歳未満のお子さんの数が減少している中で、コーディネーターを配置するのではなく、福祉課職員の能力向上を図るために研修や講習等の機会を増やす方が適切ではないでしょうか。	こどもの貧困対策における「コーディネーター」につきましては、家庭の経済状況や環境によって将来が左右されることのないよう、生活困窮世帯のこどもたちの自立支援を図ることを目的として設置されています。 市といたしましては、これまでと同様に、支援を必要とする家庭への食糧支援や制服リユース等の経済的支援は重要な項目と考えておりますので、取り組みの内容は変更せず、文言と取組内容の見直しを考えます。	市の考え方、現在の取組に即して、91ページ「コーディネーターの配置と育成」の取組項目を修正します。	

番号	計画(案) ページ	いただいたご意見	市の考え	計画への対応	備考
⑧	110	こどもの居場所づくりにおいて、現在の取り組みが「こども食堂開設支援」に限定されているように見受けられますが、それだけでは不十分だと考えます。こどもの居場所づくりは、国が推進する重要な事業の一つであり、地域全体で積極的に取り組むべき課題です。 たとえば、ページ79に記載されている「第2期えびの市子どもの貧困対策推進計画の評価」の「子どもの居場所づくりの推進」の項目にある、「地域による学習支援の推進」を復活させていただくことを提案します。 (一部省略) このように予算の裏付けがあることを示し、まちづくり協議会と協議することで、こどもたちの安全で充実した居場所づくりを実現できると考えます。ぜひ積極的なご検討をお願いいたします。	ご意見のとおり、現在の取組が限定的な表現になっておりますので、「こどもの居場所づくり」として取り組めるよう主な取組を改めたいと考えます。	市の考え方に即して、110 ページ「子ども食堂開設支援事業」の取組項目を修正します。	